ウェルズ『市民ケーン』の視聴ポイント

1． はじめに

- 全ての技術と演出を取り上げることができないので、解説は限定的
- いきなり映画冒頭から技術を効果的に使用した演出の連続

2． 冒頭

- **マットペインティング、ミニチュアさらにオプティカル・プリントでの映像作成**
  - 冒頭のザナドゥーのシーン|簡単に言えば、実写と手書きの絵、ミニチュアとの合成
  - オプティカル・プリント|ハリウッドで開発されたオプティカル・プリンターと呼ばれる機械による、二枚の別のフィルム映像を合成して、1 つの映像とする技術
- 0:00:31「立ち入り禁止」の看板から、実写と絵の合成シーンをクロスディゾルブの連続で、ザナドゥーの屋敷に接近し、屋敷の外から中へ

3． ケーンの死

- 0:02:23 スノードーム内部の雪が降る映像から、クロスディゾルブ＆引きの映像で、スノードーム内の雪、さらにケーンの手元にあるスノードームだということを表現（オプティカル・プリント使用）
- 0:02:30 超クローズ・アップ、接写用の特注レンズの使用
  - 通常レンズでは、これほど接近した被写体にピントを合わせることが不可能
  - 時間も過去に戻っている（死の直前）
- 0:02:30 音声へのエフェクトの適用により、声を謎めかせる
  - 音声に反響音（音が響く場所で録音）を使用（既に、ラジオ・ドラマで使われていた技術）
- 0:02:35 手元のスノードームが下に落ち、ケーンの死を意味させている
- 0:02:38 広角レンズで看護師がケーンの部屋に入ってくるシーンを撮影（映像の湾曲）
  - 通常広角レンズは、広範囲の遠景を撮影するのに使用（本映画では真逆の利用法）
    →シーンの続きはケーンの部屋の鏡に映されて連続的に表現（ピクチャーインピクチャー）
- 強烈なコントラスト（白と黒の明暗の差の激しい映像）
  - この映画の基本的な撮影スタイル
  - 0:02:45 撮影時に、ライトの強烈な光がないと（我々の日常的な感覚では「相当眩しい」）このような極端なコントラストの差を、カメラフィルムには記録できない
  - 上記 2 つのシーンでは、逆光撮影も併用されている（後で解説）
  - ライトによる強烈な光を生み出せるライトが開発されていたため可能となった
    ・多くの電力を必要とするため電力供給インフラも必要（一般家庭では無理！）

4． ケーンの生涯の概要

- 0:03:10 マーチ社のニュース＝「映画の中に映画ニュースを挿入」
  - 映画ニュース|当時テレビ放送はない、映像ニュースは映画が担った、人々はニュースを観に映画館へ
  - メディアにメディアを登場させる、当時としては画期的な手法
  - 0:10:13 にも、映画の中に新聞という他のメディアが挿入

- 0:05:13　ケーンの写真での「特殊メイク」
  （子供時代を除き、ケーンは撮影時には 25 歳のウェルズひとりが演じている）
  - 以前にも特殊メイクは存在したが、本映画では、より高度な技術であるライフ・マスク（人間の顔をかたどったマスク、現在の特殊メイクの基本）を使用し、よりリアルな特殊メイクを使用
- 以後、短い多様なショットの切り替え
- ケーンは何者か？
  - 0:06:35 サッチャーのフラッシュ・バック|ケーンが何者かを語る
  - 0:07:34 マーチ社のニュース|労働者広場の労働者の演説が、ケーンが何者かを語る
  - 0:07:47 マーチ社のニュース|ケーン自身が、自分が何者か語る
- 0:08:42 過去の実在人物（ヒトラー）と架空の主人公の共演
- 0:10:50　カメオ出演|ケーンにインタビューしているラジオ記者は、トーランド

5. 新聞社のシーン

- 0:12:26 （前のショットからのモンタージュ）「The End」が投影されたスクリーン
- 極端なコントラストと逆光撮影
  - 0:13:36 被写体の背後に強烈な光を当てて撮影すると、被写体は影になる
- 基本的に、以後、関係者へのインタビューを担当する新聞記者の顔の表情を一切見せない演出

6. スーザンの回想シーン

- 0:14:20 スーザンが経営するエル・ランチョのネオンサインの特撮（映画の最後で再出）
  - カメラの移動ショット（トラッキング・ショット）
  - ネオンサインの看板は開閉式でカメラの移動時に上下に看板が移動する仕掛け
  - 次の天窓は、テープ編集時のフェード・インとフェード・アウトで移動を表現
- 0:16:17 部屋の外と中、パンフォーカスと逆行撮影の併用による 2 つのシーンの同時撮影
  - この手法により、前後の人物の異なる内面を 1 つのシーンで同時並行して映し出す
  - 本映画でたびたび使用されている

7. サッチャー図書館でのケーンの過去の調査

- 0:17:15 サッチャー図書館の現在のシーン
- 0:18:54 以後、ケーンに関する資料の内容の映像化によるフラッシュ・バック
  - ソリと雪の映像から次のシーンへ
- トラック・バック 0:19:03 での後ろに下がりながらの撮影
- パン・フォーカス（ディープ・フォーカスとも呼ばれる）
  - 0:19:03 以後のシーン 画面の前景から後景まで全てにピントを合わせ、
    奥行きの深い構図を作り出す撮影技法（専門用語で「被写界深度を深くする」）
  - パン・フォーカスを可能にするためには強烈なライトが必要
    （光量不足だと後景はピントが合わなくなる＝「ボケる」）
  - 相当後方まで、ピントがあっていることに留意

- 0:20:05 からの超ロング・テイク（超長回し）
  - ショットを極力少なくして、俳優の舞台的な演技を生かす、本映画のいくつかのシーンで使用されている
- 0:23:03 場所と時間移動、少年ケーンのサッチャーのもとでの生活
  - 前のソリの映像から、現在のソリの映像にモンタージュ（マッチ・カット）、さらにまだ若いサッチャーの「メリー・クリスマス」と少年ケーンの「メリー・クリスマス」（サウンド・ブリッジ）から次のシーンへ
  - 0:23:14 サッチャーの「そして新年おめでとう」でいきなり、ケーンもうすぐ 25 歳の時代に飛ぶ
  - 0:23:44 サッチャーは、ケーンが受け継ぐべき財産リストを送付
  - 0:23:46 次のシーンは、すかさずケーンから帰ってきた手紙を読み上げる（時間の省略）
  - サッチャー氏の「新聞社の経営は楽しいだと..はあ」という発言の次のシーンでは
  - 0:24:09 新聞社の経営に乗り出すシーンに時間が飛ぶ
- 0:27:12 1929 年冬 サッチャー氏による新聞記事の読み上げと記事の投影で時間と場所を飛ばす
  - 0:29:40 サッチャー図書館の現在のシーンに戻る

8. バーンスタインへのインタビュー

- 0:30:12 バーンスタインへのインタビュー開始
- ローアングル
  - 例えば 0:34:16 のシーン
- 超ローアングル
  - 例えば 0:34:16、0:37:42 のシーン 天井がずっと映るほどのローアングル
    床に穴を掘ってそこにカメラを置き、なるべくケーンは下から撮影された
  - ハリウッド映画では、スタジオ撮影が主流であり、通常は天井には撮影用の照明器具がセットされているので、映画のセットに天井自体は存在しないことが多い
  - ケーンの威圧感と尊大さを表現するため（他の人物のローアングルでの撮影も
    多いが）超ローアングルから彼を見上げるようなショットが数多く登場

「地面を掘って作り出した超ローアングル」が
以前取り上げたどの映画で先に使用されていたかは思い出して欲しい

- 0:32:54 バーンスタインのケーンとリーランドに関する回想の映像化
  - 0:39:16 原稿を保存しておきたい（我が綱領宣言）
  - 0:40:00 クロニクル社 発行部数 495,000 部 奥にクロニクルのエース記者たちの写真
  - 0:40:26 モンタージュ 写真がそのまま現実に、さらに時代も 6 年経過
- 0:47:48 現実のバーンスタインへのインタビューに戻る

9. リーランドへのインタビュー

- 0:49:17 病院の外観からリーランドへのインタビューシーンへ
- 0:51:46 リーランドによるケーン夫妻の様子の結婚生活の回想シーン
  - 空間の固定と複数のフラッシュバックの組み合わせ
  - 同一空間下での過去の異なる複数の時間の出来事を、短いショットのモンタージュで一瞬に凝縮して表現
  - 二人の距離と会話の内容の違いで、二人の関係性の変化を表現

- 0:54:00 現実のリーランドに戻る
- 0:55:00 リーランドによるスーザンとケーンの関係の回想シーン
  - 1:09:38 夜の入り口～新聞記事の入り口の写真へのモンタージュ
  - 1:15:04 新聞記事の内容の映像化 ケーン氏は歌手と結婚
  - 1:17:17 シカゴのインクアイリー社のシカゴオフィスの回想
- 1:22:40 リーランドへのインタビューシーンに戻る

10. 再びエル・ランチョへ

- 1:24:51 エル・ランチョの冒頭シーンの再現
- 1:25:08 スーザンの飲酒とインタビューシーン
- 1:26:15 スーザンの回想シーン
  - 1:33:20 綱領宣言がここで出てくる
  - 1:34:19 メディアによるフラッシュバック|ワシントン・インクワイラー他新聞
  - 1:35:01 再び回想シーン
- 1:45:50 再びインタビューシーンの続き
- 1:46:34 クレーンショット、クレーンでカメラを移動させながらの撮影
  「クレーン・ショット」が以前取り上げた
  どの映画で先に使用されていたかは思い出して欲しい
  - シーンを自然につなぐ映像合成、上記のクレーンショットのシーンの途中では、
    別の映像が継ぎ足されていて、自然に見えるようになっている
- 1:46:42 スーザンの店のネオンサインに移動しさらにザナドゥーの看板へ
  - 類似性のある被写体のショットをつないで、時間と場所を一挙に移動（マッチ・カット）

11. 1:46:44 執事のレイモンドへのインタビュー

- 1:46:46 ザナドゥーの看板に切り替えレイモンドへのインタビューへ
- 1:47:39 レイモンドの回想シーン
- 1:50:58 再びレイモンドのインタビューシーンへ
- 1:51:39 シーンは長回しのまま、ザナドゥー内部を調査する記者たちのシーンへ転換する

12. ラストシーン

- 1:56:19 立ち入り禁止の看板が再現（スタートと同じシーンに戻る）